

種子島での実習

今回私は、実習で種子島に行った。種子島は行ったことなかったのでも楽しみだった。

1日目は、トッピーで種子島まで行き、種子島医療センターで院長の話を聴いた。種子島医療センターは「離島でありながら最先端の医療を！」「研修、実習などの充実した支援」「離島だからこそ楽しめるワークスタイル！」の3つをモットーにしている病院だった。最先端の器具や、サーフィン部があることなどいろいろと驚かされた。午後からは、種子島産婦人科医院に行った。種子島産婦人科医院は、木造建築でなんだかリラックスできる雰囲気だった。産婦人科といえば出産しか思いつかない私はどんなことをするのかあまり想像できなかった。この日は赤ちゃんの様子をエコーで見ることはもちろん、他にも中絶の相談や女性特有の病気の診察などを見学した。産婦人科医が日常何をしているのか少しわかったことは、とても大きな収穫だった。

2日目は午前中、種子島医療センターで内科、麻酔科の見学をした。内科では、種子島の人が発症しやすい病気を教わった。このように地域独特の病気があることをしっかり把握したい。麻酔科では、手の靭帯を削る手術を見学した。よくテレビで見るものとはほぼ同じだった。全身麻酔や器具の仕組みなどを知ることができた。

3日目は、種子島産婦人科医院を見学した。この日の朝早くに赤ちゃんが生まれたらしく医師の方はあまり寝ることができないまま診察を開始されていた。ただ、疲れた様子を見せず患者とやり取りする姿はとてもかっこよかった。最後には、生まれたばかりの赤ちゃんを抱かせていただいた。一生ものの経験であった。

4日目は老人ホームわらび園に行った。そこは、病院で入院後、まだ日常生活への復帰が困難であったり、不安である方を受け入れていた。わらび園では、たくさんの職種の方が働いていた。介護士や作業療法士、理学療法士や、言語聴覚士などリハビリには多くの職種の方が必要だと知った。寝たきりの人も多く大変さを感じた。

今回の実習では、たくさんのことを見た、聴いた、感じた。とてもいい経験ができた。また、先輩や同級生もフランクな人ばかりで楽しく実習を行うことができた。また来年もたくさんさんの経験をしたい。

最後に、今回の実習関わった病院の方、引率の先生方、その他関わっていただいたたくさんの方々へ感謝申し上げます。この感謝を忘れずにこれからも学んでいきたい。

島の医師 希望の灯り 照らしてく

医師は患者の病気を治すことで島民の光になる存在だと思い考えました。

地域枠実習 事後レポート

今回の実習では、種子島を訪れた。今まで種子島を訪れたことがなかったので、島の暮らしや、医療の状況については全く何も知らないでいた。実習先の病院は種子島の医療センターと種子島産婦人科医院で、主に産婦人科医院で実習を行った。

今まで生きてきた中で産婦人科医院に行くことなどなかったので、どのような患者さんが来て、どのような診察をするのか見当もつかなかったが、実習を経て産婦人科医についての理解を深めることが出来た。現在、種子島産婦人科医院には医師が1人しかいないと言うことで、急な出産や診察すべてに一人に対応しなくてはならず、離島の医師不足の現状を目の当たりにした。それでも、医院の前田先生はやりがいがあって毎日が充実しているとおっしゃっていて、産婦人科医というものに対して少し興味を持った。

医療センターでの実習では、手術を間近で見学させていただいた。解剖実習もまだ行ってない我々にとっては、目の前で手術の見学はとてもためになった。先生方が手術の内容や器具について丁寧に説明してくださり、座学で習うよりとても深く印象に残った。

また、医療センターの理事長の田上先生との食事会も設けていただき、種子島で働く医師について様々な話を聞くことができ、とても勉強になった。

今回の実習を振り返ってみると、始めてやること、見ることがとても多く、たくさんのことを学ぶことが出来た。島の医療の現状、暮らし、医師の置かれている状況、どれも自分の目で見て学ぶことが出来た素晴らしい実習になったと思う。

俳句

島のため 先生方が 蒔いた種 命となりて 島に芽吹かん

背景

以前、種子島産婦人科医院の存続が危ぶまれた際、存続のために尽力された高山先生や、産婦人科医として現在ただ一人で働いている前田先生など、働いてくれた先生方のおかげで、今も種子島で新しい命が生まれているということを詠んだ。